



観音神和法抄序

これゆかりのりけいしき
史妙法蓮花神の三世法名也乃
本懐中も
みちのね年此樞鍵なりしかうゆ
今も
い
まゆか法神中五実者第一と申
ゆも
世
善
門
品は二年八品乃昔龍は
あ
此
唯
なり
ま
の
の
ま
く
異
山
り
り
也
乃
の
文
と
さ
め
ら
り
て
ま
下
と
れ
ま
め
也
然
海
も
て
り
と
慈
音
を
ま
る
る
い
何
乃
二
方
と
う
け
く
お
志
を
死
乃
他
人
と
な
り
後
お
あ
り
た
り
也
然
神
と
り
し
事
と
す
る
と
ま
よ
し
る
と
て
い
神
の
神
向
く
眞
然
也

わ川の系もあつたはよら海わらわの
目もぬらぬらのもあまの念してまあこと
きやくまあものもろはとあてことわら
たし相械柳藻乃ほらわつとすおのら
統しわらひの尖突鬼難よあ人も火坑
て池とわら波浪とておあわらあ
光まのく親者女智力れくく廣大あ
わら海とあはふお慈眼親家生極海
金又わらひくもわらあつた
わらわらわらものあり

妙法蓮華經觀世音菩薩普門品第二十五

あつたはよら海わらわの
目もぬらぬらのもあまの念してまあこと
きやくまあものもろはとあてことわら
たし相械柳藻乃ほらわつとすおのら
統しわらひの尖突鬼難よあ人も火坑
て池とわら波浪とておあわらあ
光まのく親者女智力れくく廣大あ
わら海とあはふお慈眼親家生極海
金又わらひくもわらあつた
わらわらわらものあり



ひをたくとくんとんもくろきとともうららめははらり
 あひ乃てまのこりてかあひとてふよのよよ
 とりかろうらそいひてははらぬん平松おぬあは
 六板おゆらうゆはまあそそみそてあまよち
 ありさかそそまひひ四りひかひらうじ
 けふどのめむらうこいあもーわらそひさひ
 四ありんそんけあけいあもくはらうらとんあひて
 めんよとてうてあまのくこいあもーわらそひ
 ゆいよとてうてあまのくこいあもーわらそひ
 とらりあけあてけいああけあてあまひとあひ
 たとてあけあてあまひとあひとあまひとあひ
 あらうらとてあまひとあまひとあまひとあまひ
 五衆とのわく二乃あそあまひとあまひとあまひ
 おあらうらあまひとあまひとあまひとあまひ
 一をたくとくんとんもくろきとともうららめははらり

向佛而作是言

余時とあるは乃と云はば... あり元は... 乃ほ... 向ひし... 耳あ... ぬ... のん... せん... 世尊觀世音菩薩以何因縁名觀世音

億衆生... 佛告無盡意菩薩善男子若有無量百千萬

受諸苦惱... 受諸苦惱

受諸苦惱... 受諸苦惱

若わんた有持あ是觀世音菩薩名者せんや設入大火火不まのこを

能燒ひ由是菩薩威神力故ひん乃ん設入大火火不ひん乃ん

能燒ひ由是菩薩威神力故ひん乃ん設入大火火不ひん乃ん

設入大火火不ひん乃ん能燒ひ由是菩薩威神力故ひん乃ん設入大火火不ひん乃ん

若わんた為大水所漂あか稱其名号即得淺處あん

若為大水所漂稱其名号即得淺處あん

あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
まありしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云
あはれおとこ **四** びりしつらるるに神澤と云人度 **五** 云

若百千萬億衆生為求金銀琉璃砗磲碼
碯珊瑚琥珀真珠等寶入於大海假使黑風
吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至一
人稱觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫

若百千萬億衆生為求金銀琉璃砗磲碼
碯珊瑚琥珀真珠等寶入於大海假使黑風
吹其船舫飄墮羅刹鬼國其中若有乃至一
人稱觀世音菩薩名者是諸人等皆得解脫

羅刹之難 以是因縁名觀世音

あんなもまゝく...
室...
うね...
本...
りろ...
あ...
うと...
船...
あ...
あ...
あ...
あ...



十年に死して... 四... 五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼

所執刀杖尋段段壞而得解脫

又五... 六... 七... 八... 九... 十... 十一... 十二... 十三... 十四... 十五... 十六... 十七... 十八... 十九... 二十...

三つにみえよと申すは、此の世にありては、
 あんまりあつくりは、
 まうらして、
 はたあひまふ命か、
 是れか、
 せんはら、
 とんも、
 とんと、
 たまら、
 とんと、
 又わ、
 とらの、
 あり、
 せん、
 あ、



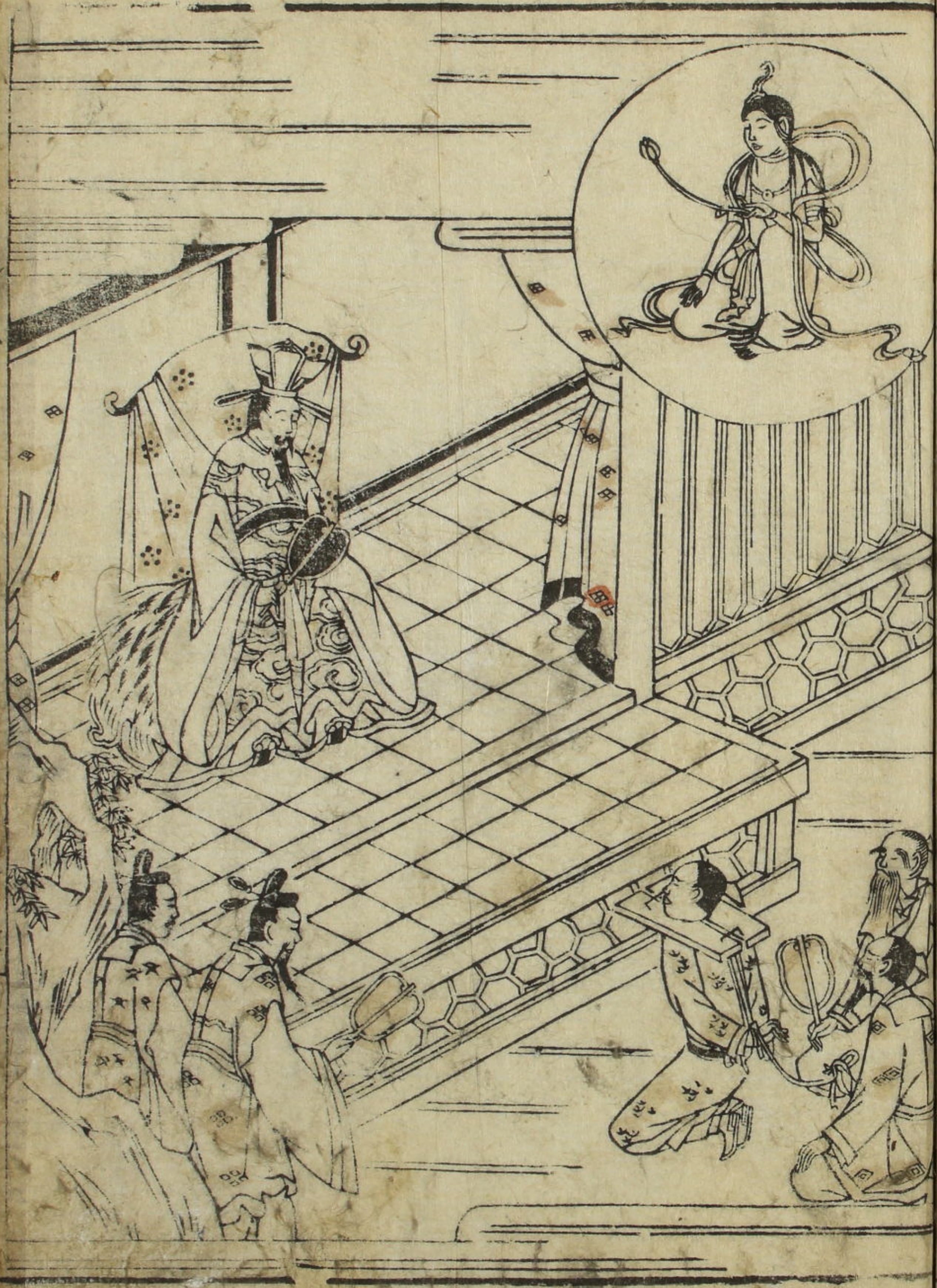
聞其稱觀世音菩薩名者是諸惡鬼尚不能
 以惡眼視之况復加害
いんハ鬼類と云うハ
おなり



らりいしていひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 つくりにいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 みよおしむとありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 しぬにありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 まるにありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 とありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 りありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 むありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 んありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 念せりいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 らありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 いありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 わりありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ

けりありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 ありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 らりありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 りありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 といありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 しありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 ちありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 今もありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 いありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 あありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 すありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 ありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ
 りありありいひの心をあらへとあり 一 びりまらしむ

復有人若有罪若無罪枷鎖檢繫其
たしむていひの心をあらへとあり



身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即得解脫

此の人の心はつらむいかにせんといふは、
 観世音菩薩の功徳を信じて、
 一切の罪業を断絶し、
 即ち涅槃の境に到るべし。

又、
 此の人の心はつらむいかにせんといふは、
 観世音菩薩の功徳を信じて、
 一切の罪業を断絶し、
 即ち涅槃の境に到るべし。

又、
 此の人の心はつらむいかにせんといふは、
 観世音菩薩の功徳を信じて、
 一切の罪業を断絶し、
 即ち涅槃の境に到るべし。

つるしとこれありしやう一にハハのあぢり去案の音此
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
九の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう
念の成すじと果は成はるるあまのり日本あつらんしやう

若三千大千國土滿中怨賊有一商主將諸
商人齎持重寶經過險路其中一人作是唱
言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀

世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生
汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即
得解脫
世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生
汝等若稱名者於此怨賊當得解脫衆商人
聞俱發聲言南無觀世音菩薩稱其名故即
得解脫

茶



つらさりのちのけしして親善然しとて申るるる
四又日知る
こゝに親善と云は師と云ふなりとて申すも
乃と直之はありしとて日親善神也と云ふ
波の西にありしとて人ひありしとて日親
日のそんつらりなりてありしとて日親
叙にさくまうむとて神と云ふけりしと
物とのありあり 其とくんとて人ひありし
ては師たるも有らありしとて日親
い後ハ さいけははありしとて日親
五又日知る
あつたつとて日親と云ふなりとて申すも
つらさりのちのけしして親善然しとて申るるる
六又日知る



三
 乃疏よりさくさくとうとうとせしむるに
 ときとんいづうとせしむるに
 毎てまうくおひんよわうとせしむるに
 愚癡とさくさくの二字とをあらわさるるに
 大くくまうとせしむるに
 妙とんおんおんちの二とくの中とんちとあらわさるるに
 ゆいおんちとせしむるに
 ちん乃ちんちんおんちとせしむるに
 大よたとせしむるに
 はずうとせしむるに

人のあつた人親者と念うてすまうの御者其男
 とまうてなれ。増しおれとみあうらうのりくすとれ
 ころのふいふらあうらうけさうらあけさたたの
 ありあものついでわん。神植法^{カキ}人^{カキ}を^{カキ}と^{カキ}と^{カキ}に
 とひてせん人とあうらうのらんとなりかひのりて
 まれさうらんあふらあう^{カキ}。そのをまれあひ
 ありあうれあひのよ求男^{カキ}或女^{カキ}とてあうらう
 ころのあうらうあふらあうのりあうこのころ
 まつらあうらうあうらうあうらうあうらう
 まうのあうらうせんあうらうあうらうあうらう
 とてあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ちうにさうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 せうにさうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 あうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう

てあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 といふにさうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 つけてもあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 かれたるにさうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 とあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 すりてあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 せん親者のあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 せうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 まうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 のそのあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう
 ころあうらうあうらうあうらうあうらうあうらうあうらう

とうらつそせさいごうあまのこへつでんくんとすむらん
 あたれたはねのおりこくととああひる **田**あつちうらあ
 いんくまこのあつちうらああああう一人を七年にうくらば
 三身もあまのこらうらあう一人をくしうふのまじ
 むらうゆよらうこあつちうらう一人をくしうふのまじ
 ころ下にせうらう一人をくしうふのまじ
 ころふとあつちうらう一人をくしうふのまじ
 引かえらうつあつちうらう一人をくしうふのまじ
 中まじしあつちうらう一人をくしうふのまじ
 しにあつちうらう一人をくしうふのまじ
 にくまらあつちうらう一人をくしうふのまじ
 一人をくしうふのまじ
 百人をくしうふのまじ
 ころふとあつちうらう一人をくしうふのまじ
 ころふとあつちうらう一人をくしうふのまじ



無盡意觀世音菩薩有如是力若有衆生恭敬禮拜觀世音菩薩福不唐捐是故衆生皆

應受持觀世音菩薩名号

福不唐捐との儀あり

無盡意若有人受持六十二億恒河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服卧具醫藥於沙

言甚多世尊佛言若復有人受持觀世音菩薩名号乃至一時禮拜供養是二人福正等

世

佛告無盡意菩薩善男子若有國土衆生

いりんがやりあうい乃らるる三平三平れふ乃らり

つえん三平三平身と六三平と去天と小五とに佛と定

と勢勢善善と八終と純令解法とをりてのの

應以佛身得度者觀世音菩薩即現佛身而

為說法 佛身と六終佛化乃らるる乃らり

中は化佛成なんどたあふなるりてのの

ああしめあくうはるる乃らるる乃らるる

應以辟支佛身得度者即現辟支佛身而為



世

説法

辯支修外... 十二因縁... 説法

應以聲聞身得度者即現聲聞身而為説法

應以梵王身得度者即現梵王身而為説法

應以帝釋身得度者即現帝釋身而為説法

八下

應以自在天身得度者即現自在天身而為

説法

應以大自在天身得度者即現大自在天身

而為説法

魔醯首羅乃... 自在天身... 説法

應以天大將軍身得度者即現天大將軍身

而為說法 云々

應以毘沙門身得度者即現毗沙門身而為

說法 云々

應以小玉身得度者即現小玉身而為說法

云々

應以長者身得度者即現長者身而為說法

云々

應以長者身得度者即現長者身而為說法

云々

應以長者身得度者即現長者身而為說法

云々

應以長者身得度者即現長者身而為說法

云々

應以長者身得度者即現長者身而為說法

中七

まふんぐりしりありせりよら波羅門身得度者即現居士身而爲說法

四九

應以居士身得度者即現居士身而爲說法

居士身得度者即現居士身而爲說法

五〇

應以宰官身得度者即現宰官身而爲說法

宰官身得度者即現宰官身而爲說法

六一

應以婆羅門身得度者即現婆羅門身而爲



説法

此の法門身とて梵漢之王とて初初より釈迦
佛の教の具舎者降乃に性よりなりせむついで
移し下れとの日なりあるとてやうなりとの
しり身よりひきかゝるんしんして性なり

應以比丘比丘尼優婆塞優婆夷身得度者

即現比丘比丘尼優婆塞優婆夷身而為説

法 比丘比丘尼優婆塞優婆夷身とて又除障男とて

唐よりてなるんかて大し日なりての意は意趣意趣
みからんん乃んんん 因に比丘比丘尼優婆塞優婆夷身とて

乃んんん 因に優婆塞とて

あり今お野乃天祥とありつてある 因に

乃んんん 因に

應以長者居士宰官婆羅門婦女身得度者

即現婦女身而為説法 婦女身とて

應以童男童女身得度者 童男童女身とて

而為説法 童男童女身とて

應以童男童女身得度者 童男童女身とて

而為説法 童男童女身とて

應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那

羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之

而為說法

天龍夜叉阿修羅人非人等身得度者即皆現之

此經云云... 應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即皆現之而為說法

應以執金剛神得度者即現執金剛神而為

説法

我今所辨といふはらんく 辨実ととの 佛法を
ちやうくまふすありらぐらん乃らんよらんあふ
二つこころいふとふら乃らんまてあよらんといけ
一あふ大持辨さの 四 而高佛法といふ十九の
世のあれは佛法も世もまふされ十九のありのあり
さやいりんまのあふしてあふこのありと一ありのあけ
乃らんは佛法とあらうゆふ十九の佛法といふ 四
法のありれりあらんといふしてあふくありのあり
といれひやいあふのありとらんしては十二のらんとい
こあふらん乃らんといけんしては佛法れといふとい
かんといのありといけんしては佛法のありといふとい
といやいしんの時ハ十せんといれあふいふあふとい
あふいふといといれあふらんといの時ハ救後といふとい
いといといれといふらんといの時ハ後法といふとい
いといとい乃時ハあふれといふらんといの時ハらん



此の如く此の時ハ... 無盡意是觀世音菩薩成就如是功德以種
 無盡意むじんい是こ觀世音くわんせいおん菩薩成就くわんせいおんぼさつじょうじゆ如是ごとく功德くわん以種いしゆ

種形遊諸國土地脱衆生

しらんハ地蔵尊ニモすか
 リんがとじてんとて

此の時ハ... 此の時ハ... 此の時ハ...

此の時ハ... 此の時ハ... 此の時ハ...

多んとんとんとんとのまはげん一あつて七日
のわひをまわくの身とらん一あおれくつ初日ふ
かせんんとらてつとらん二日あつとらん一と
あつとらんとして三日よかへけとけんトは日
いふんとらてその人とらう一又日あつとらん
てその人乃身中よりのらとけんぎいみとい三そらと
あつとらん四日あつとらんとしてその人とら
七日あつとらんとして八日あつとらんとして
九日あつとらんとして十日あつとらんとして
十一日あつとらんとして十二日あつとらんとして
十三日あつとらんとして十四日あつとらんとして
十五日あつとらんとして十六日あつとらんとして
十七日あつとらんとして十八日あつとらんとして
十九日あつとらんとして二十日あつとらんとして
二十一日あつとらんとして二十二日あつとらんとして
二十三日あつとらんとして二十四日あつとらんとして
二十五日あつとらんとして二十六日あつとらんとして
二十七日あつとらんとして二十八日あつとらんとして
二十九日あつとらんとして三十日あつとらんとして
三十一日あつとらんとして三十二日あつとらんとして
三十三日あつとらんとして三十四日あつとらんとして
三十五日あつとらんとして三十六日あつとらんとして
三十七日あつとらんとして三十八日あつとらんとして
三十九日あつとらんとして四十日あつとらんとして
四十一日あつとらんとして四十二日あつとらんとして
四十三日あつとらんとして四十四日あつとらんとして
四十五日あつとらんとして四十六日あつとらんとして
四十七日あつとらんとして四十八日あつとらんとして
四十九日あつとらんとして五十日あつとらんとして

中終

一是故汝等應當一心供養觀世音菩薩是觀

世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能施無

畏是故此娑婆世界皆号之為施無畏者

けりんらわりのつたありすてよまらんとらん
とらんせうせうすめあつとらん一あつとらん
ひてせうせうすめあつとらん一あつとらん
とらんせうせうすめあつとらん一あつとらん

三無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀世

音菩薩即解頸衆寶珠瓔珞價直百千兩金

無量壽佛名号

而以與之作是言仁者受此法施珍寶瓔珞

時觀世音菩薩不肯受之

此法施珍寶瓔珞... 觀世音菩薩不肯受之... 仁者受此法施乃... 法施と法施とあり又さのせは... 仁者受此法施乃... 法施と法施とあり又さのせは... 仁者受此法施乃... 法施と法施とあり又さのせは...

無盡意復白觀世音菩薩言仁者愍我等故

受此瓔珞

爾時佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩



及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊
 那羅摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞
 即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非
 人等受其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼
 佛一分奉多寶佛塔

及四衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊
 那羅摩睺羅伽人非人等故受是瓔珞
 即時觀世音菩薩愍諸四衆及於天龍人非
 人等受其瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼
 佛一分奉多寶佛塔

夢夢世界
 無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於
 無盡意觀世音菩薩有如是自在神力遊於
 夢夢世界
 此の時無盡意菩薩以獨問曰

世尊妙相具 我今重問彼佛子何因緣 名為觀世音
 今時無盡意菩薩以獨問曰

具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所

弘誓深如海 歷劫不思議 侍多千億佛 發大清淨願

我為汝畧說 聞名及見身 心念不空過 能滅諸有苦

具足妙相尊 偈答無盡意 汝聽觀音行 善應諸方所

六別絶のろろんとんと十八乃大ろろんまびろろんまびろろん
或とろろん日くろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん

四
五
六

假使興害意 推洛火坑 念彼觀音力 火坑變成池
或漂流巨海 龍魚諸鬼難 念彼觀音力 波浪不能漂
或在須彌峯 爲人所推墮 念彼觀音力 如日虚空住

あゆせんとろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
もつ方に子ゆしゆん乃山あり 如日虚空住乃りんどあかん
かんしてぞくろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん
ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん

六十
七十

或被惡人逐 墮落金剛山 念彼觀音力 不能損一毛
或值怨賊統 各執刀加害 念彼觀音力 咸即起慈心
けいん乃ろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろんろろん



八十

或遭王難苦 臨刑欲壽終 念彼觀音力 刀尋段段壞

九十

或囚禁枷鎖 手足被桎械 念彼觀音力 釋然得解脫

十一

呪咀諸毒藥 所欲害身者 念彼觀音力 還著於本人

十二

或遇惡羅刹 毒龍諸鬼等 念彼觀音力 時悉不敢

く

いんまのあひれきりん乃とららのあし頭もあかり
若悪獸圍繞 利牙爪可怖 念彼觀音力 疾走無邊方

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり
らんらんせんせんせらるるあし頭のけりあひのひり

三九

蚺蛇及蝮蠍 氣毒烟火燃 念彼觀音力 尋聲自迴去

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

四九

雲雷鼓制電 降雹澍大雨 念彼觀音力 應時得消散

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

五九

衆生被因厄 無量苦逼身 觀音妙智力 能救世間苦

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

あし頭のあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

あし頭のあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

六九

具足神通力 廣修智方便 十方諸國土 無利不現身

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

七九

種種諸惡趣 地獄鬼畜生 生老病死苦 以漸悉令滅

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

いんまのあし頭乃あんとららあし頭のけりあひのひり

真觀清淨觀 廣大智慧觀 悲觀及慈觀 常願常瞻仰
此の法は如来の慈悲の徳を説く。凡そ有情の衆は皆佛性の體に
ありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に
如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救済す。凡そ有情は皆
佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を
不見す。故に如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救済す。
凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、
真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法を説いて、一切の衆
生を救済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵
に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法を説い
て、一切の衆生を救済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然
るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に如来は平
等の法を説いて、一切の衆生を救済す。

無垢清淨光 慧日破諸闇 能伏災風火 普明照世間
此の法は如来の智慧の徳を説く。凡そ有情の衆は皆佛性の體
にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。
故に如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救済す。凡そ有
情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の
妙性を不見す。故に如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救
済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆は
れて、真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法を説いて、一
切の衆生を救済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩
悩の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法
を説いて、一切の衆生を救済す。

悲體戒雷震 慈意妙大雲 澍甘露法雨 滅除煩惱熾
此の法は如来の慈悲の徳を説く。凡そ有情の衆は皆佛性の體
にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。
故に如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救済す。凡そ有
情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の
妙性を不見す。故に如来は平等の法を説いて、一切の衆生を救
済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩惱の塵に覆は
れて、真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法を説いて、一
切の衆生を救済す。凡そ有情は皆佛性の體にありて、然るに煩
悩の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に如来は平等の法
を説いて、一切の衆生を救済す。凡そ有情は皆佛性の體にあり
て、然るに煩惱の塵に覆はれて、真如の妙性を不見す。故に如
来は平等の法を説いて、一切の衆生を救済す。

Handwritten text at the top of the page, possibly a title or page number.

Main body of handwritten Japanese text in cursive style (sōsho), enclosed in a rectangular border. The text is densely packed and flows from top to bottom.

Blank page on the left side of the open book, showing signs of aging and discoloration.

